

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	地理	
科目基礎情報							
科目番号		0001		科目区分	一般 / 必修		
授業形態		授業		単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科		創造工学科 (電気・電子コース)		対象学年	1		
開設期		通年		週時間数	3		
教科書/教材		片平博文ほか (2017) 新詳地理 B, 帝国書院. 帝国書院編集部編 (2017) 新詳高等地図, 帝国書院.					
担当教員		澤 祥					
到達目標							
世界の人々の暮らしは地域ごとの特徴を持ち、これが自然と人間生活の係わり合いから生まれることを理解できる。「なぜ、その場所に、その様にそのものがなければならぬか」を地理学的に考えられるようになる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		分布をもとに地理的思考ができる		授業内容の基本的事項を理解できる		授業内容の基本的事項を理解できない	
評価項目2							
評価項目3							
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		世界の諸地域の自然と社会 (人間生活) を、地名・事項の暗記ではなく、「なぜ、その場所に、その様にそのものがなければならぬか」を考えながら説明・考察する。					
授業の進め方・方法		教員と学生の発問・回答による双方向型授業によって実施する。					
注意点		教員の説明・発問をよく聞くことがポイントである。板書事項だけでなく、教員が話しただけの内容もノートできるようになることを望む。					
事前・事後学習、オフィスアワー							
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	地域による生活の違いを考える			地理的な考え方を理解できる	
		2週	生活舞台としての地球			地球の構成が理解できる	
		3週	緯度経度			緯度経度の原理を理解できる	
		4週	時差			時差を理解し時差の操作ができる	
		5週	地形			地形形成の原理を理解できる	
		6週	気候とはなにか			気候の意味が理解できる	
		7週	気候要素			機構三要素：気温・降水量・風に基本を理解できる	
		8週	気候因子 1			気候要素が場所によって変化する理由を理解できる	
	2ndQ	9週	気候因子 2			気候要素が場所によって変化する理由を理解できる	
		10週	ケッペンの気候区分 1			ケッペンの気候区分の原理を理解できる	
		11週	ケッペンの気候区分 2			ケッペンの気候区分の原理を理解できる	
		12週	ケッペンの気候区分 3			ケッペンの気候区分の原理を理解できる	
		13週	世界の気候と人間生活 1			ケッペンの13の気候型を理解できる	
		14週	世界の気候と人間生活 2			ケッペンの13の気候型を理解できる	
		15週	世界の気候と人間生活 3			ケッペンの13の気候型を理解できる	
		16週					
後期	3rdQ	1週	地球環境問題			地球環境問題の基礎を理解できる	
		2週	人種と民族			世界の人種民族紛争の原因を理解できる	
		3週	民族と国家			民族と国家の関係を理解できる	
		4週	ヨーロッパ 1			EUの基本的な事項を理解できる	
		5週	ヨーロッパ 2			EUの基本的な事項を理解できる	
		6週	ヨーロッパ 3			EUの基本的な事項を理解できる	
		7週	ヨーロッパ 4			EUの基本的な事項を理解できる	
		8週	アメリカ 1			新大陸アメリカの意味を理解できる	
	4thQ	9週	アメリカ 2			アメリカ合衆国の誕生を理解できる	
		10週	アメリカ 3			アメリカの人種民族問題を理解できる	
		11週	アメリカ 4			多文化主義の国アメリカ合衆国を理解できる	
		12週	中国 1			中国の現状を理解できる	
		13週	中国 2			中国の現状を理解できる	
		14週	韓国・北朝鮮とロシア			隣国の概要を理解できる	
		15週	ASEAN			ASEANの基本的事項を理解できる	
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	産業活動 (農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等) などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。		3	

				人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、地理的または歴史的観観点から理解できる。	3	
				社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	3	
				日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。	3	
				国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。	3	
				文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。	3	
			地歴・公民	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	3	
				社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。	3	
				今日の国際的な政治・経済の仕組みや、国家間の結びつきの現状とそのさまざまな背景について理解できる。	3	
				環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	3	
				国際平和・国際協力の推進、地球的諸課題の解決に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	3	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	20	0	10	0	0	100
基礎的能力	70	20	0	10	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0